コラム Column

“日本のバイオテクノロジー”シリーズ第7回

伊勢神宮に受け継がれてきた古くて新しいサステナビリティの精神

執筆者紹介

千種 清美 ちくさ きよみ

【経歴等】
三重県生まれ、文筆家。皇學館大學非常勤講師。三重の地域誌『伊勢志摩』編集長を経て文筆業に。新幹線車内誌『月刊ひととき』に「伊勢、永遠の聖地」を8年間にわたり連載。平成5年、25年の式年遷宮を2回取材し、伊勢神宮についての講演や執筆活動を行う。著書に『伊勢神宮式年遷宮参拝ガイド』『伊勢西国三十三所観音巡礼～もう一つのお伊勢参り』『女神の聖地、伊勢神宮』(全国学校図書館協議会選定図書)など。三重テレビコメンテーター、三重県観光審議会委員など。

“日本のバイオテクノロジー”シリーズでは、日本の伝統と文化に関する寄稿をシリーズでお届けしています。第7回となる今回は、30年以上にわたり伊勢神宮の取材を続けてこられた文筆家・千種清美氏に式年遷宮の歴史や意義、そして持続可能な社会への示唆について執筆いただきました。

サステナビリティ、持続可能であることが時代のキーワードとなり、さまざまな分野で重要視されるようになっています。神さまをお祀りする伊勢神宮と、現代のサステナビリティという組み合わせは、意外に思われるかもしれません。けれど、伊勢神宮で行われる20年に一度の神宮式年遷宮は、1300年の長きにわたり継続してきた最大の祭典なのです。しかも、途中で100年以上におよぶ中断を乗り越え、時代や人々の価値観も変わるなか、続けられてきました。

神宮式年遷宮は、今から1300年前の690年に第1回が行われました。仏教をはじめ、大陸からの制度や文化が入ってきた状況の中、持統天皇は天皇の代ごとに宮殿を遷していた慣例(一代一宮)を、唐にならった恒久的な都、藤原京を作るという大きな転換を図る一方で、天武天皇の発案であった20年ごとに建て替える遷宮を伊勢で行ったのです。

そして、社殿を建てる御敷地を2つに定めました。東西に2つの敷地があり、それを20年ごとに東から西へ、西から東へと遷すのです。この遷宮の繰り返しによって、伊勢には、古い形をした新しい社殿があるのです。つまり、新しくすることで、古い形の社殿を継続してきたといえるのではないでしょうか。

私は、この神宮式年遷宮を1993年、2013年と取材しました。とくに2013年の第62回については、遷宮諸祭と呼ばれる遷宮にちなむ33もの祭典や行事から、別宮の遷宮まで9年におよび取材を続けることができました。

遷宮ごとに、注目される言葉がありました。1993年は「木(き)なり文化」、2013年は「常若(とこわか)」でした。「木なり」は、布や糸を晒さないままの生成りから転化したもので、生地のままで飾り気のないことを表しています。たしかに伊勢神宮の社殿は、朱色などに塗られず、ヒノキの美しい木肌である素木のまま使用されています。そして、唯一神明造の高床式建物は、金具のほかは装飾がほとんどありません。非常にシンプルな建物であることが大きな特徴なのです。この素木でシンプルなことが20年ごとの建て替えを可能にし、また用材の再利用もしやすくなるといわれました。

そして、常に若いと書く「常若」は、大切な神さまに

常に新しい、瑞々しい社殿に鎮まっていただくという精神を表した言葉です。私は神宮の神職から初めて聞きました。若いは年齢的なことでなく、瑞々しいということ。これは神道の清浄性を尊ぶことにも繋がると考えられます。なぜ壊れているわけでもないのに新しくするのか、その一つの理由でもあると思います。これは多くの人々から支持を受けて、「三重とこわか国体」(※)と国体名にも使われました。

そして近年、サステナビリティや循環という言葉が伊勢神宮とともに語られるようになっています。式年遷宮で欠かせないのが、造営に用いられるヒノキの御用材です。遷宮諸祭の最初の祭典、山口祭は、この御用材を伐り出すにあたり、山の神にその作業の安全を祈願するもの。遷宮の始まりは、山から御用材を伐り出すことなのです。現在は、長野県と岐阜県にまたがる国有林から伐り出されています。山の木は放置するのではなく、計画的に伐採するなど手を入れ、活用することで山林の持続継続が保たれることになるのです。

昨年11月、内宮周辺の神路山で、神宮職員による植樹祭が行われました。神宮大宮司をはじめ、神職や舞姫たちが山の斜面にはりつき、神路山に生えるヒノキからとった種から育った3年生の苗700本を手で植えました。この植樹祭は1950年から始まっていることに驚きました。先の大戦の終戦後、1949年の式年遷宮が延期になった翌年から、植樹祭を始めていたのです。200年後には、社殿の宮柱になるよう祈りを込めて──。神宮のサステナビリティは、神宮式年遷宮を滞りなく行うという目的があるからこそ、なされてきたと思わずにはいられません。

※2021年に中止となり、2035年に国民スポーツ大会開催予定。

2025年11月18日、神路山鼻突谷で行われた植樹祭。遷宮の御用材のヒノキを育てることを目的に毎年行われる。